

2024 年度第 2 回神戸市外国人市民会議 議事要旨

地域協働局地域協働課

日時	2025 年 3 月 25 日（火） 15：00 ～ 17：00	場所	神戸市役所 1 号館 14 階 1141 会議室
出席者	兵庫県立大学環境人間学部教授 乾美紀 在日本大韓国民団兵庫県地方本部総務部長 李宝彰 兵庫朝鮮学園理事長 金錫孝 神戸華僑総会事務局長 石鋒 社団法人神戸外国倶楽部 元会長 F.E. レオンハート 在日本印度商業会議所 ニシャット・トラバリー ひょうごラテンコミュニティ 代表 大城ロクサナ マサヤンタハナン 副代表 川口フローラ 神戸大学人文学研究科後期博士課程院 朱信樺 〔敬称略〕		
	地域協働局地域協働課（事務局） 企画調整局政策課		
議事	（１）転入者向けウェルカムチラシのリニューアル （２）2025 年度の新たな取り組み案 （３）その他		

1. 開会

2. 議事

（１）転入者向けウェルカムチラシのリニューアル

（事務局より資料に沿って説明。グループに分かれて議論し、意見をまとめて発表。）

< 3 グループ共通 >

- ・ QR から飛んだリンク先に日本語だけしかない意味がない。日本語が出てきてしまうとそこであきらめてしまう。できるところから多言語で用意してもらいたい。

< グループ A >

- ・ KOBE Free Wi-Fi が前面に出ているのはいい。
- ・ 「日本語を勉強できる場所」の「他の日本語クラス」が、地域日本語教室ではなく、KICC で実施している「初級日本語クラス以外のクラス」に見える。どちらの QR コードも KICC の HP に飛ぶなら、1 つの QR コードでいいのではないか。
- ・ ナビに掲載されている病院の基準が分からない。
- ・ チラシが多言語対応していることが目立たず分かりにくい。矢印を大きくするなど、工夫してはどうか。
- ・ 各コミュニティの案内をしてほしい。

< グループ B >

- ・ 渡したときに説明ができるかどうかが大変。その場でアプリかなにかダウンロードしてもらわないと意味がないだろう。紙がなくても持っている携帯で、何かあった時にアクセスできるものに登録しておいてもらった方がいい。

< グループ C >

- ・ 環境局のサイトについて、ごみを出す曜日など、文字表示より絵の方がいい。
- ・ 引っ越してきた時、そもそも自分の町名が分からない。
- ・ みんなに知らせるのが難しい。領事館などに置けばどうか。

(2) 2025 年度の新たな取り組み案

(事務局より資料に沿って説明。グループに分かれて議論し、意見をまとめて発表。)

◆ 高校生世代向けの日本語学習実証事業

(座長)

- ・ 労働目的で来日しており、高校進学を希望していない子もいる。
- ・ 現状、市内に外国人生徒向けの特別枠選抜がある高校が少ない。
- ・ 普通校に行けることが大事。外国人の選択肢の少なさが問題。

<3 グループ共通>

- ・ 情報発信の方法や対象など、広報をどのようにするのか明確でない。
- ・ それぞれの状況はあるが、そもそも日本語が不十分であることが問題。
- ・ 学校現場におけるサポートが不十分。渡日してから年数が経つにつれ、行政のサポートがなくなっていく現状がある。

<グループ A>

- ・ ポスターやパンフレットを送ってもらえると、団体でも配布しやすい。
- ・ この事業がなかったとしたら、学習希望があった時等にどこに問い合わせたら良かったのかが気になる。
- ・ 外国人特別枠が1校あたり3人となっているのはなぜなのか。また、増やすよう市から県に要請できないのか。

<グループ B>

- ・ まずは、サバイバルのための日本語が必要。サバイバルのための日本語を学んだ後に学習のための日本語という順序であるべき。
- ・ 特別枠の席を奪い合っている現状にあり、日本で生まれて育っても高校まで行くことができない子どもがいる。
- ・ ランゲージ支援員は期間限定で、十分なサポートができていない。
- ・ 交通費も大きな問題である。
- ・ 教育に関する制度、経済的な支援や日本語に関する支援の周知が十分にできていない。

<グループ C>

- ・ 必要な事業であると思うし、このような事業がスタートするのはいいことであるが、具体的にない。(対象や場所等)
- ・ ランゲージ支援員の制度が、高校にはない。義務教育ではないので支援が手薄。
- ・ コミュニティを使つての情報拡散が有効であると考える。

◆ 多文化防災リーダーの育成

<3 グループ共通>

- ・ 留学生は外国人コミュニティとはあまり繋がりががないので、留学生をリーダーに育成してもコミュニティには波及しないと思う。
- ・ ずっと日本に住んでいる人、コミュニティに属している人でも日本語ができない人もいるので、外国人コミュニティと地域コミュニティは交流できていないし、今でも地域トラブルは発生している。
- ・ 在住外国人に関する防災について、今後議論していきたい。

<グループ A>

- ・ 留学生ではなくて、コミュニティの人を育成して、引き継いでいった方がいい。
- ・ 国で一律のガイドライン(防災の授業を年2回義務付けるとか)を作ってくれたらいいと思う。
- ・ 中国人の留学生が集まるグループがある。そこでは、新しく入ってきた学生に対して、日本の生活ルールや注意点を伝えている。そういう場所を利用するとリーダーを育成しなくても、毎年やってくれるという意味で役に立つかもしれない。
- ・ 職場で防災訓練を実施していても、参加しない外国人も多く、そもそも防災に対する意識が低い。

<グループ B>

- ・ 韓国コミュニティは防災委員会も作り、報告書も作成済み。南海トラフ大地震発生時の対応につ

いても議論している。

- ・ ラテンコミュニティでも防災ガイドを作成しているが、防災文化のない国から来ているので、危機意識がなく、ガイドを見てももらえない。
- ・ 平時からの啓発・情報発信に取り組んでもらうことが大切。
- ・ 日本語もできない、孤立している人に情報をどう届けていくのが課題。

<グループC>

- ・ 防災情報の発信は誰がするのか。
- ・ 留学生同士のつながりは薄く、地域活動に参加しているわけでもないのに、防災リーダーになったとして、どれくらいの役割を果たせるものなのか。

◆ 神戸市基本構想

<3グループ共通>

- ・ 基本構想の内容が漠然としていて、次期総合基本計画にどう結びついていくのかがイメージしづらい。

<グループA>

- ・ 神戸をいい風にとるとこんな感じになるだろう、ということが書かれている。
「ともに困難を乗り越えていく絆」➤時間がそうされているだけではないか。
「すべてのひとをやさしく包み込みます」➤裏を返せば無関心なのではないか。
開港の結果、こうならざるを得なかっただけではないか。
- ・ 神戸の魅力はコンパクトであること。住みやすい。
- ・ 外国人支援団体の数が多い。子育てもしやすく、子どもにとっても住みやすい。

<グループB>

- ・ 神戸の共生モデルを作っていけるといいと思う。
- ・ 行政とコミュニティの乖離を埋めていきたい。
- ・ 保守的なままで、抜本的に変えていく動きはあるのか。どうしていきたいかが伝わってこない。
- ・ 多文化共生に関する取り組みの中で、1番足りていないのは、教育・防災の分野である。

<グループC>

- ・ 神戸市の施策としてどういったものを作っていただけなのか楽しみ。
- ・ 神戸空港国際化が魅力ではあるが、神戸にいて未来に繋がっていくとは思わない。
- ・ 神戸は「ちょうどいいところ」だから住んでいるという人もいる。
- ・ 「多様性があふれる開かれた気風」とあるが、「多様性」の対象はどこまでなのか。
- ・ 多言語対応だけが多文化共生ではない。

以上